

リトセン開設ワーク

6月29日(日)YMCA リトリートセンター

Yサ委員長 野々口 佳孝



平成 15 年 6 月 29 日 (日) 晴れ ! ! !
今回が Y サ委員長になって初めての行事です。当日お天気を心配していましたが、何とか晴れました。ワイズ行事で久しぶりの快晴でした。特にリトセン開設ワークは雨が降ると出来ないワークがあるため心配していましたが、無事すべてのワークをこなすことが出来ました。ウエストクラブからは総勢 28 名の参加がありました。感謝! 感謝です。特にニューメンバーの安平ワイズ、島田ワイズと、綺麗なメネットお二人、それに元気がかわいいコメットさん 3 名ずつがワークに参加していただきました。
ウエストクラブはステージ付近のテントポール、椅子、机、物置のペンキ塗りとロッジ内の清掃、外側の草刈でした。ワーク量は大変多かったのですが、みんなで力をあわせ終了定刻時刻より早くワーク終了することが出来ました。



昼食はキャピタルクラブのメンバーが美味しいカレーライスを準備いただきました。有難うございました。やはり若いメンバーが増えるとクラブの活気が違います。ウエストクラブの力をアピール出来たのではないかと思います。帰りにメンバー 10 名で「ねねの湯」へ行き、サウナ、露天風呂でワークの汗を流して、その後おいしいビール【私は運転しますから飲んでいません】飲み楽しい時間を過ごしました。皆様お疲れ様でした。

参加メンバー

胡内ワイズ、メネット・桂ワイズ、コメット・岩本ワイズ
中原ワイズ、メネット、コメット 2 名・牧野ワイズ
野田ワイズ、メネット、コメット・中瀬ワイズ・立山ワイズ、
メネット、コメット・安平ワイズ、メネット、コメット 3 名
島田ワイズ、メネット、コメット 3 名・野々口ワイズ

以上 28 名



7月役員会例会

7月3日 今出川 YMCA
ドライバー委員長 山下 太郎



7月3日今出川 YMCA にて胡内会長期初の役員会例会が開催されました。例会に先立ち総会が行われ桂直前会長による年間活動報告および決算報告があり全員異議無く承認されました。その後中原書記の司会のもと役員会が進められそれぞれの議案に対して活発な意見が飛び交いました。特に新入会員の会費の問題ではニューメンバーからも多くの問題提起があり今後森田ワイズを中心に会則の変更などの話し合いがもたれる事となりました。ますますウエストの動きが活発になるように思われた例会も無事定刻とおり終了しました。ご苦労様でした!!!

参加メンバー 胡内ワイズ、立山ワイズ 岩本ワイズ
河合ワイズ 中原ワイズ 桂ワイズ 中村ワイズ
松本ワイズ 中瀬ワイズ 野々口ワイズ 野田ワイズ
山下ワイズ 森田ワイズ 市橋ワイズ 牧野ワイズ
安平ワイズ

計 17 名

**ホームページ管理委員会報告
7月10日(木)野田ワイズ宅
ブリテン委員長 安平 知史**



7月10日(木)野田ワイズ宅にて、新サーバーに現在のホームページデータの引越作業を、野田ワイズはじめ、中原ワイズ、島田ワイズ、ホームページの勉強という事で洛中の大野ワイズ、そして私の計5名で行われました。作業も順調に進み新しいアドレス <http://www.kyoto.west-com> に全てのデータを転送完了しました。これで中瀬ワイズが構想されている全員参加型、巨大リンクホームページ『この木何の木』計画に向けての第一歩のスタートです。その後、リニューアルトップページの製作作業を夜も遅い時間まで5名それぞれアイデアを出しながら行われました。これからのウエストホームページに好ご期待!

メネットコーナー

胡内佳志子メネット



スペシャルオリンピックス(SO) <知的障害を持った人の為のスポーツ組織>の普及のため作成された『able』の映画が、昨年京都でも上映され、多くのワイズメンバーやメネットさん達が鑑賞されたと思います。我がクラブでは野田コメットが実際にSOアスリートとして活躍していますから、特にウエストメンバーにとっては、この映画への受け入れ方は少し違ったのではないのでしょうか?

その野田コメットに思いがけない依頼が飛び込んできたのです。私には、尼崎に所在する百合学院という女子中・高校で教師をしている友人がいます。この友人も昨年京都での上映会に私と一緒に鑑賞しており、その時から、学校の人権学習の一環(生徒達がこの映画を見ると、「障害者」と「健常者」の違いということをとくさん話したくなるだろうな〜そして彼らと話したい、友達になりたいって心からそう思ってもらえるだろうな〜)として是非上映させてほしいと言っていました。

そんなある日、その友人から電話があり7月15日に上映が決定したと。実はその際に、野田君そしてお母さんに是非学校へ来てもらって上映後に生徒達からの生インタビューに答えてほしいとの依頼だったのです。

早速、野田メネットにその旨を伝え、意向を聞きました所、お役に立てる事なら...と快く引き受けてくれましたが、中・高合わせて800人程の女学生の前でのインタビューですので、カズ君が興奮してしまうのでは?って非常に心配の様子でした。「何せ女の子が大好きな子ですから」って(えっ?これってお父さん譲り???)冗談はともかく、それ以来、野田家ではカズ君が当日ベストコンディションで臨めるよう、何度もリハーサルを繰り返したり、ハイテンションにならるように家族間での会話にまで気を配る等、色々とお苦勞をおかけしたようです。

当日、私も野田親子の随行で百合学院へ行って参りました。学校へ到着した時には少し緊張気味の野田親子でしたが、インタビューの本番を迎えた舞台上では、堂々(特にお母さん)としたものでした。その中で「大会での結果はどうでしたか?」という質問にカズ君が「金メダル!」と答えた時には、「わぁ〜凄〜い!!!」という歓声と共に拍手で会場が鳴り響いたのでした。若い彼女達が純粋に感動した結果だったのですね。

最後のコーナーでは、あとだしジャンケン大会が始まりました。これは、野田メネットが百合学院の生徒さんに一言メッセージという意味で始まりました。普通のあとだしではなく負ける為のあとだしジャンケンでした。生徒さん達は、戸惑いながらも野田メネットが出す手をじい〜っと見つめながら、真剣にジャンケンに取り組んでいました。3~4回繰り返したのでしょうか。その後「どうでしたか?どんな気持ちでしたか?」という野田メネットの質問に「すごく戸惑った」「すごく難しい」「ジャンケンするのにおどおどしてしまっただ」等々感想が飛び交ったのです。

「知的障害を持った人は、いつもその様な気持ちで日々暮らしています。ですから町でそういう人を見かけて、なんだか困ってそうと思ったら、ちょっと声をかけてあげて下さいね。」というメッセージで会が終了したのです。

学校を後にするとき、玄関で何人かの生徒さんが、カズ君に「さようなら!!今日はありがとう!!」って、声をかけてくれました。その時の非常に照れた、でも嬉しそうなカズ君の顔が忘れられません。

百合学院の生徒さん達、そしてあらためてカズ君に 色々な感動をありがとう の一日でした。

最近感動した事はありませんか?

中原優子メネットへバトンタッチです!

大分クラブ10周年記念例会出席を区切りとして

交流IBC DBC委員長 森田恵三

大分クラブ10周年の喜び

その日6月29日(日)の別府湾の波は静かに朝日に映えて美しく輝いていました。大分クラブの創立10周年記念例会は、前日から投宿していたホテル清風(チャーターナイト時と同じホテルで、大分クラブ牧野哲朗会長が経営されている)にて午後2時30から6時にかけて開かれました。

例会は記念式典、坂田邦洋別府大学教授による記念講演(日本人骨の時代変化)へと続き、懇親会では牧野会長とホテル従業員によるシヨータムがあり、マジックとマジック犬タンちゃんのイリュージョンなどを趣向として楽しく盛り上がりました。ところで、九州部外からは、ただひとり私だけがお祝いに駆けつけたのには、曰く因縁があるのです。例えば1992年度第38代日本区理事に就任した私が掲げたテーマは「**拡げよう! 社会にワイズの大きな輪 日本区6000の実りを求めて**」というものでした。

いわずもがな、それは約3000名のワイズメンを継続的運動をもって6000名にする倍増を目指そうというものでした。残念ながら次年度では「6000プロジェクト」の立ち上げはみたものの、次期理事の情熱につなげることができず、トーンダウンしてしまいましたが、私の理事在任1年間には、ホームクラブ京都ウエストによる二つ目の新クラブ「**京都みやび**」の誕生をはじめ、多くの賛同者を得て日本の各地に実に11クラブの新クラブが生まれたのでした。

当然のこととして、そのすべての設立総会とチャーターナイトにはフル出席したのですが、11クラブの中で気がかりなクラブが存在していたのです。

それは、スポンサークラブからキイメンバーの移籍がなく、しかもYMCAがないという共通項をもった新潟・会津・大分の3クラブでした。私自身もクラブ誕生以来一度も足を運ぶことがなかったことを悔いていた次第ですが、案の定、新潟は解散、会津も7~8名でやっと存立している弱体クラブとなったのです。つまり、スポンサークラブの支援不足、強力なリーダーの不在、YMCAがないことも影響した具体的活動の不足、人間関係の不良など典型的なクラブ衰退現象を見たわけでした。したがって、せめて大分だけは、しっかりしたクラブに育ってほしいものと心密かに願っていたところ、この2~3年前からカラー刷りのクラブプリテンが届くようになり、主体的な活動としてフリースペース・フリーリー(先日の彦根での西日本区大会懇親会会場で出会った次期会長の梶原陽子さんが主宰されています)の活動支援をとりあげ、設立以来の悲願であるYMCA開設もどうやら目処がついてきたこと、クラブの運営は設立以来書記を務めておられる内野純一ワイズと小林敬二ワイズが中心となって引っ張ってこられていることなどを知るにつけ、大分クラブの10周年記念例会にはどうしても出席したいものと早くから決めておりました。

当日の式典において、チャーター当時の想い出話とともに、これまで弱弱しい歩みながらも10年の歴史を築いて来られたことへの感謝と、今後の更なる活躍発展への激励の挨拶をすることができました。感謝の記念品まで贈って下さったことは私にとっては望外の喜びとなったのでした。

ワイズ人生にひとまず区切りをつける

去る6月7日2002年度年次代議員会において、西日本区定款改正案と定款施行細則改正案が審議され2度目の承認を得たとき、私の両肩がスッと軽くなるのを感じました。1997年に発足した当時の西日本区定款は、一年前から設

置された西日本区発足準備委員会において、現行日本区定款の条文の区名など、ほんの一部を手直ししたただけのもので、国際協会の承認を得て施行されたものでした。もとより東西両区それぞれの発展を期しての分離独立であっただけに、日本区の条文やその構成にも矛盾あり不整合ありというもの、見直しは絶対に避けておれない課題でした。

1998年度に入り組織検討委員会の一員となった私は、翌年度灰谷理事から特別委員会として位置づけられた組織検討委員会の委員長としての重要な使命を与えられ、定款を含む諸規則の本格的な見直し、改正作業への取り組みを開始したのでした。通算5年にわたる組織検討委員会は、2度にわたる全会員への意見徴取を含め、回を重ねること34回に及び委員会の働きをもって、その使命を達成し一先ずとじることになりました。この間、ハードな作業に熱意と根気をもって取り組んでいただいた委員各位や、それに応えて数多くの質問や意見などをお寄せ下さりご協力いただいた西日本区会員の皆様には、ただ感謝あるのみといった心境にあります。

実は私にとって、大分クラブ10周年記念例会に出席するという事は、自分のワイズ人生にあって一先ず大きな区切りをつけるというもうひとつの意義があったのです。

というのは、私のワイズ活動は1971年京都パレスのチャーターメンバーとして関って以来33年に及びます。京都パレス第7代会長として第33回日本区大会をホスト、1980年京都ウエスト初代会長、1983年に京滋部初代部長を引き受けた頃からワイズ活動の場は外部に向けて次々に拡がりを見せ始めました。

1988年京都国際大会会計・事務局長、1990年ワンステップ委員に続き、1991年組織検討委員、1992年度第38代日本区理事、1993年~96年度アジア地域MC事業主任、1996年~99年度には国際議員へと連なると同時に、西日本区内でも1994年度からはワイズアカデミー委員長、1999年度から組織検討委員長を歴任して参り、去る6月末をもって、ようやくワイズアカデミー委員、組織検討委員長の重責から開放されることとなったのですが、今から思えば、次々とよくもこれだけ続けられたものだとの実感が募ります。すべて自ら買って出た役職とてなく、いつも人様から押され、人様から助けられ、何一つとして自分の力で出来たこととて無かったと思うのも偽らざる告白であります。「われ他の中にこそ生きてあれ」というわが人生訓に従ったワイズ活動の拡がりは、自論の「ワイズ温泉どっぷり論」の実践そのものであったと思っています。

ワイズ温泉にどっぷり浸かることでの時間的・経済的な消費は、決して消費ではなく自らへの投資であって、撥ね返る恩恵には計り知れないものがあり、奉仕されているのは自分の方であると感謝せずにはおられません。

「人生とはただ一度なるもの」という人生一回性の哲理を知るとき、素直な生き方に努め、学びとふれ合い、そして奉仕の世界に浸れる感謝と喜びを他に分かち合うという運動を、広く社会に展開してゆくことこそ、ワイズメンの使命であり、生き甲斐だと信じています。

去る6月末をもって西日本区の一切の役職から離れ、大きな句読点を打つことができました。12年間の長きにわたって日本区ワイズ運動の中核的活動の場を与えられ、無事に大役が果たすことが出来たのも、これひとえに京都ウエストクラブという優秀クラブの一員であったればこそと、ここにあらためてメン・メネットの皆様へ心からの感謝の念を贈るとともに、新陳代謝が実った活気ある京都ウエストの今後更なる発展に寄与することを誓う次第であります。

本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いたします。

キックオフ例会
7月24日 ガーデンパレス
ドライバー委員 塩見 詠司



胡内新会長の第一回目のキックオフ例会で皆さんの気持ちも新たに引き締まった雰囲気の中、有意義な例会となりました。(私は遅れてしまい迷惑をかけたが・・・)講演には、京都プリンスクラブの渡辺公生ワイズを迎え、今期胡内会長の下、環境への意識付けに力を注ぐ中、環境問題についての講演で非常に有意義なお話しをしていただきました。20世紀を振り返りながら人間がもたらした盲目的科学の進歩によりさまざまな環境破壊が起こり、現在改めて人々が健康、文化、生命尊厳の意識、未来保証を考える意識が高まって参りました。21世紀を迎えウエストでもより強く環境について考え、「出来ることから実行していく」という行動により、普段からの生活において気づきやめざめがより一層意識下の中で生まれてくると思います。私自身が今まであまり考えていなかったのですが、電気や水に対して節約する意識など生活サイクルの中で少々ではありますが考え、実行するようになりました。ワイズを通してみんなと交流することで、一人一人の行動でも「それが集まれば大きな力となるんだ」と言うことを実感しています。今後も環境問題に対しての意識を持ちつつ、このモチベーションを保っていこうと思っています。



参加 メン 21名 メネット 4名 コメット 1名
ゲスト 3名 合計 29名

環境委員会より
燃料消費効率向上のための「エコドライブ のすすめ」
環境委員 島田 博司

一人一人が気づいたことをマメに実行すれば、自動車の燃費が向上し自動車から排出されるCO₂やNO_xをかなり減らすことが可能です。地球のために、私たちのために、私たちの子供たちのため、上手な運転をすることに心がけましょう。

無用なアイドリングをやめる(アイドリングストップ)
人待ちや荷降ろしなどで駐停車するときは、エンジンのかけっぱなしをやめましょう。乗用車では10分間のアイドリングでガソリン140ccの燃料が、大型ディーゼル車では一時間のアイドリングで最大1800ccもの燃料が無駄になります。

経済走行で走る 一般道路なら時速40km程度、高速道路なら時速80kmで走るのが経済的な走り方です。高速道路において、時速80kmから時速100kmに速度を上げて走行した場合、ディーゼル貨物の車では30%燃費が悪化する例もあります。

点検・整備をきちんとし、タイヤの空気圧を適正にする。 点検・整備を適切な間隔で実施することは、良好な燃費状態の維持、窒素酸化物等の排出ガスの抑制につながります。適切なタイヤ空気圧よりも0.5気圧少ない状態で50km走ると、乗用車でガソリン130ccが無駄になります。

無駄な荷物は積まない 車のエンジンは荷物の重さに敏感です。10kgの不要な荷物を乗せて50km走ると乗用車でガソリン20ccの燃料が無駄になります。

無駄な空ふかしをやめる 10回の空ふかしは乗用車でガソリン60ccの燃料が、大型ディーゼル車の場合では、100~170ccの燃料が無駄になります。

急発進、急加速、急ブレーキをやめる(適切な車間距離) 急発進、急加速を10回繰り返すと、乗用車ではガソリン120ccが無駄になります。ディーゼル車では急発進はなめらかな発進、加速に比べて、燃料が約15%無駄になります。

マニュアル車は早めにシフトアップする エンジンを高速回転で使うほど窒素酸化物の排出量が増大します。アクセルをいっぱい踏み込んで低速ギアで引っ張る運転は避けて、早めにシフトアップすることが大切です。

渋滞をまねく違法駐車をしない 迷惑注射は交通渋滞をもたらす余剰な排気量が増大します。アクセルをいっぱい踏み込んで低速ギアで引っ張る運転は避けて、早めにシフトアップすることが大切です。

エアコンの使用は控えめにする エアコン使用時はエンジンの回転数が高くなるため、結果として燃料の使用量が増大します。まめに適切な温度に調整することが重要です。

マイカーの利用者は、相乗りに努める。 また、公共交通機関が利用可能な場合には、できるだけ公共交通機関を利用する。大都市圏内の交通機関が一人の人を1km運ぶのに排出する二酸化炭素は、地下鉄を100とすると、自家用車は1750、路線バスは650であり、可能な限り自動車の保有者がバスや電車の公共交通機関を利用することが地球環境に配慮した交通マナーです。